

平成23年度

能美市教育委員会の点検及び評価報告書

(平成23年度事業対象)

平成24年12月

能美市教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正により、平成20年4月から教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに市民に公開しなければならないこととなっています。

そこで、能美市教育委員会では、同法の規定により、平成23年度の取り組みについて、自らその状況を点検し評価を行い、金沢大学地域連携推進センター教授浅野秀重氏にご意見をいただき、まとめたものであります。

能美市教育委員会としては、点検・評価の実施を通して、施策の検証と改善を絶えず図りながら、教育施策の着実な推進に努めていきます。

平成24年12月

能美市教育委員会

目 次

事務の点検評価

施策1	学校教育の充実	
1	教職員の資質並びに授業力の向上	1
2	豊かな心、確かな学力の向上	2
3	教育支援の充実	5
4	教育環境の整備充実	6
施策2	青少年の健全育成	
1	青少年教育	7
施策3	生涯学習の推進	
1	これからの国際化社会の中で活躍できる人材の育成と国際化の推進	10
2	生涯学習活動	12
3	公民館活動の推進	15
4	社会教育施設の運営	20
施策4	芸術・文化の振興	
1	文化財の保存と活用	24
2	博物館の活動	27
3	文化振興	30
施策5	生涯スポーツの推進	
1	競技スポーツの充実・強化	32
2	生涯スポーツの普及・振興	34
3	スポーツ施設の整備充実	35

教育委員会会議及び教育委員の主な活動

1	教育委員会会議	37
2	教育委員の主な活動（大会ほか各種行事など）	41

事務の点検評価

施策1 学校教育の充実

地域に根ざした学校づくり、次世代を切り拓く人材の育成を目指して、豊かな心、確かな学力、たくましい体をバランスよく育む学校教育活動が展開できる教育環境づくりを推進する。特に、今年度は小学校、次年度は中学校の新学習指導要領が完全実施されるので、そのための教育環境の整備、充実を図る。

1 教職員の資質並びに授業力の向上

平成23年度の主な取組

◇小学校指導書等整備事業（12,943千円 新規）

学習指導要領の改訂に併せ、教科書も大幅に改定された。授業時数も週に1～2時間増加し、学習内容も国語、社会、算数、理科、体育等の教科時数が増加した。学習内容の増加に伴って教科書も刷新されており、その教師用指導書も充実している。

およそ10年に一度の学習指導要領全面改訂を機とする今回、児童の基礎・基本の学力を保障する上でも重要であると考え、(前は学年に1冊であったが)、教師用指導書を全学級数分(学級担任1人・1教科・1冊)を整備した。

評価

・学級担任1人・1教科・1冊で指導書等を導入したことで新学習指導要領改訂に伴う新しい教科書への対応をスムーズに行うことができた。併せて、教科書準拠の視聴覚教材等も購入したがICT推進を進めている中で効果的に活用が進んだ。

○意見

学習指導要領の改訂に伴う教育内容の変化に対応するために、指導書を学年1冊から学級担任1人1教科1冊へと整備した取り組みは、教員の教育活動に対する教育行政が行う条件整備に他なりません。少しでも教員の負担を少なくすることにより、教員が、児童・生徒と向き合う時間を確保するという積極的な施策の一つとして認識しています。

◇教科研修員派遣事業（224千円 前年度と同額）

昨年度開催した教育フォーラムを機に立ち上げた事業で、今年度で2年目となる。

*目的 教科等(道徳等を含む)の専門性を高め、優れた授業実践力を持った教員を養成する。

*研修期間 1週間(5泊6日) ※旅費は市教委負担

- *資格 能美市内小中学校勤務教諭（中堅層）で校長が推薦し、教育長が認めたものとする。 ※年間2名
- *役割 「（能美市）教科研修生」として先進校の授業実践に学び、
- ・在籍校で率先して授業を公開するなど、校内、市内の授業力向上に資する。
 - ・市内近隣校からの要請に応じ、研修会への参加を通して授業力向上に資する。
 - ・市教育委員会からの要請に応じ市内の授業力向上に資する。
- *実績 平成22年度（筑波大学附属小学校2名：国語、算数）
平成23年度（筑波大学附属小学校1名：算数、上越市立大和小学校1名：ICT教育）

評価

- ・視聴覚機器等活用推進事業の推進に合わせ、ICT関連として先進校の上越市立大和小学校に1名を送り込むことが出来た。次年度は研究推進モデル校で発表を控えているので、是非研修してきたことを校内の実践力向上に活かしていくことを期待したい。
- ・更に、次年度の8月の夏季教職員研修会では研修講座を開設して市内の教職員への発信を予定しており、今後の視聴覚機器等活用推進事業の啓発につなげたい。

○意見

教員の教育実践能力を高めるための研究、修養、研鑽は、教員の資質向上を図る上で意義あるものであり、その成果を能美市全体の教員で共有し合い、一人ひとりの授業力（実践力）の向上とともに能美市の学校の教育力が質的に高まるようその敷衍化を期待します。

2 豊かな心、確かな学力の向上 豊かな心、確かな学力（豊かな学力）

平成23年度の主な取組

◇視聴覚機器等活用推進事業（5,760千円 前年度比5,302千円の増）

視聴覚機器等を教具として積極的に活用し、授業改善、授業力の向上を図る。3カ年間（H22～24年度）で、計画的に市内全小中学校を視聴覚機器等活用推進モデル校（以下、推進モデル校）に指定し、研究実践する。また推進モデル校は公開発表の機会を通して研究実践を市内に発信し、お互いの活用実践力の向上を図る。

- *推進モデル校 H22：浜小・宮竹小・寺井中
H23：寺井小・粟生小・和気小・根上中・辰口中
H24：福岡小・湯野小・辰口中央小

*教科用ソフト「学習探検ナビ（マナビー）」の配備

- ・小学校（国語、算数、社会、理科、生活、体育、図工）
- ・中学校（国語、数学、社会、理科、英語、技術家庭、保健体育）

- * ICT外部サポーター（教育ソフトサポート業務）の配置
 - ・役割 授業、教員研修、校務におけるICT支援
 - ・推進モデル校5校 月3回 その他の学校 月2回
- * 平成23年度に新規に配備した視聴覚機器
 - ・電子黒板用パソコン 市内小中学校 各校1台
 - ・マナビー用モバイルパソコン 市内小中学校 各校3台
 - ・実物投影機・・・地元企業「日本ガイシ」より寄贈20台（市内小学校）
- * 研究実践概要
 - ・実物投影機等の効果的な活用方法を探り、授業改善を図る。
 - ・「学習探検ナビ（マナビー）」を活用し、効果的な授業構成をする。
 - ・外部講師を招聘して視聴覚機器等の効果的な活用法について積極的に研修し、授業実践力を高める。
- * 公开发表の機会 ※公開授業の内、ICT活用授業は4～7割
 - ・平成23年10月7日 NOMIりんぐ 粟生小、辰口中
 - ・平成24年1月25日 NOMIばんぶー 根上中、寺井小、和気小
- * 能美市内教職員アンケート結果（H24.2実施）<H23.2実施>より抜粋
 - ・「授業で実物投影機を使ったことはありますか。」・・・51%<28%>
 - ・「授業でDVD及びCD教材を使ったことはありますか。」・・・64%<56%>
 - ・「授業で電子黒板を使ったことはありますか。」・・・27%<20%>

評価

- ・ICT機器については平成23～25年度でほぼ整備完了予定であるが、小学校のデジタル教科書（理科、社会）の整備について学校のニーズも高く、ハード面の体制も整っているのは是非、配備したい。
- ・平成22～24年度の3年間で全小中学校を「視聴覚機器等活用推進モデル校」に指定し、公開授業発表を以て市内教職員に発信してきた。「まずは使ってみる」という第1段階を経て、今ではハード、ソフトの両面において学校からのニーズもあがるようになってきた。第2段階として、ICTを活用する授業実践力を更に向上させ、「わかる」授業から「できる」授業へと指導力向上を推進する段階である。折りしも、次年度（平成25年度）は、第54回石川県視聴覚教育研究大会能美大会が開催される予定であり、この機を捉えて市内全体の実践力向上を図っていく予定である。
- ・ICT機器の活用におけるハード面、ソフト面、リテラシー面が三位一体することで児童生徒の学習意欲の向上、授業の工夫や改善につなげ、教師の授業力向上、学力向上につなげていきたい。

○意見

本来、教育活動は人（教員）と人（児童・生徒）とのやりとりという、多分にアナログ的な側面が強い傾向にある取り組みと考えますが、わかりやすさ、明瞭さをより確かなものとする上で、教員がICT機器を効果的に活用することにより、児童・生徒の理解と学習内容の定着化を図ることが期待できます。併せて児童・生徒も機器を利用することで「デジタル」に対する不安をなくすことが期待され、今後とも創意工夫に努めながら「豊かな学力」の向上に努めていただきたいと思います。

また、平成25年度に開催予定の県視聴覚教育研究会会場自治体として、視聴覚教育に係る先進的な取り組みを一層推進するなど、能美市でのその取り組みが、県内における視聴覚教育のモデルの一つとして寄与できるよう多くの成果を生み出されることを願っています。

◇心の教育（人間関係力）推進事業（3,161千円 新規）

「心の教育」というと狭い意味で言えば道徳の時間を指す場合が多いが、広い意味での「心の教育」は、国語、算数などの他の教科の授業はもちろん、学校行事や児童会・生徒会活動や中学校の部活動など、いわゆる「特別活動」という教育領域も子どもたちの心の成長にとって大切な教育実践の場である。このように「心の教育推進事業」として、道徳教育、特別活動を各学校での重要な領域と位置づけ、すべての教育活動をトータルに進めていくことが大切であるとする。

昨今、一人ひとりの心のあり様や価値観、人間関係づくり（人間関係力）の稚拙さなどに起因して、いじめ、不登校などの教育問題に加え、規範意識やモラルの低下、自殺、殺人、虐待などが教育問題の範疇を越えた大きな社会問題となっている。より良い学校生活と友達づくりのためのアンケート「Q-U」を小学校4年生から中学校3年生までの全員に実施し、子ども一人ひとりの成長とすべての教育活動の要としての「学級づくり」に有効に活用していく。

- | | |
|-------|---|
| *目的 | より良い学校生活と友達づくりのためのアンケートで親和的な学級づくり（理想的な目指す学級）を目指す。 |
| *対象学年 | 小学校4年生～中学校3年生全員 |
| *実施回数 | 年間2回（6月、11月） |
| *実績 | 「親和的な学級」に属する学級数の割合 |

5月実施：38%→11月実施：54%

評価

・このアンケートの実施により、これまで以上に学級担任の学級経営意識が高揚しており、いじめ、不登校等の未然防止にも多に効果が期待できる。一人ひとりの児童・生徒をきめ細かく指導することで、本人、保護者との信頼関係が醸成され、保護者が安心して学校に通わせられること、また、すべての子どもが楽しく意欲的に学校生活を送れることが期待できる。

・導入初年度であったので、教職員の一人ひとりが、Q-Uアンケートの意義をしっかりと理解し、学級づくりに活用していくためのスキルアップを行うことに一定の成果があった。次年度は、8月の夏季教職員研修会にこのアンケートの創始者を講師として招聘し、市内教職員全員がその活用法について更に研修を深めること、また、2校程度を実践研究校に指定して活用研究成果を市内に発信していく予定である。学級作りの手立てとしての活用は勿論、いじめ、不登校等の未然防止にも多いに期待したい。

○意見

アンケート調査の実施は、改めて、個々の教員に「一人の子どもを相手にしている時もクラス全体をなおざりにせず、クラス全体を相手にしている時も、一人ひとりの子どもをなおざりにしない」と言うことの意味を問いかけることになったのではないのでしょうか。また、児童・生徒においても、よりよい学校生活をみんなで過ごすとともに、クラスを形成する一人ひとりが他者への心配りをすることの意味や大切さを認識する契機になったものと思います。人間関係力は、人間基礎力といってもいいものであり、小・中学校時代にその基盤となるものを形成したいものです。

3 教育支援の充実

平成23年度の主な取組

◇特別支援教育支援員配置事業（18, 380千円 前年度比873千円の増）

平成23年10月時点での能美市内の小中学校からの報告によれば、学習障害LD、注意欠陥・多動性障害ADHD、高機能自閉症HFAなど、いわゆる発達障害の児童・生徒、またはその疑いがある児童・生徒数は合計で114名である。この児童・生徒を含めて、学校で特別な支援が必要な児童・生徒数は全体で193名と報告されており、市内小中学生全体の3.9%（文科省：全国では6%）にあたる。

この割合は年々増加傾向を示しており、その支援体制の充実が急務である。昨年度、市内で13名の支援員を配置しているが、今年度は3名増員して全体で16名を配置し支援体制を充実する。

*配置人員	平成22年度	小学校11名、中学校2名	計13名
	平成23年度	小学校14名、中学校2名	計16名

評価

・発達障害を含め通常教室の中で特別な支援が必要な児童・生徒は年々増えており、特別支援教育支援員を増員することによって、学級づくりの充実、個に応じた支援体制の充実、安全安心の学校づくりが期待できる。低学年から中学年では学級に2～3名は必ずいるのが現状であるが、1学年に3～4学級ある浜小、寺井小、辰口中央小などの大規模校では、支援員の人数は3～4名が必要と考えるが、現状では不足している。

・支援が必要な児童・生徒の増加に加え、大量退職時代に伴う新規採用教職員も年々増加

してきており、まだまだ経験が浅く未熟がゆえに学級経営力の低下が懸念される。きめ細かな指導と学力保障をしていくうえで、支援員の質と量の充実は欠かせない。

○意見

特別な支援を必要とする児童・生徒に、「必要なときに、必要とされる質の高い支援」が適切に提供できるよう支援体制の整備は、急務でもあり、今後ともその拡充に努められますようお願いしています。

また、支援員の確保については、教育委員会としても努力されていることと存じますが、教育活動の水準の維持・向上のために、経験豊かな退職教員の協力を仰いだり、実践経験の少ない教員に対する研修の在り方を検討するなどの施策の推進がさらに求められているように思われます。

4 教育環境の整備充実

平成23年度の主な取組

◇浜小学校整備事業 (第二体育館軒樋取替、落下防止手摺設置)	3,465千円
◇浜小学校体育館耐震補強事業 (校舎耐震補強)	93,660千円
◇福岡小学校防音空調整備事業 (温度保持復旧及び除湿設備)	118,225千円
◇寺井小学校整備事業 (普通教室等改修、野菜切機購入)	4,489千円
◇寺井小学校整備事業 再編交付金 (給食室食器洗浄機及び食器消毒保管機整備)	4,405千円
◇粟生小学校整備事業 (体育館渡り廊下改修、消防設備改修)	5,476千円
◇辰口中央小学校整備事業 (コンビネーション遊具改修、給水加圧ポンプ取替)	1,284千円
◇和気小学校整備事業 (プールろ過機取替工事、普通教室等改修)	3,717千円
◇根上中学校整備事業 (普通教室等改修、消防設備改修)	3,225千円
◇根上中学校整備事業 再編交付金 (給食室洗浄機取替)	2,934千円
◇寺井中学校大規模改造事業 (設計)	4,830千円

評価

- ・今年度の耐震補強事業完了をもって、能美市小中学校の耐震化を全て完了することができた。今後は、老朽化した校舎の改修と非構造部材の耐震対策をすすめ、より安全な学校を目指す。
- ・福岡小学校校舎の冷暖房化が完了することができた。今後、残り3小学校の冷暖房化を早急に進め、より良い学校環境を全小中学校に広げる。
- ・新年度に向けて必要な普通教室の改修を実施することができた。今後も教育ニーズに応じた改修工事を進める。

○意見

学校は、児童・生徒が一日の大半を過ごす「学び、生活の場」としての「公の施設」であり、安全であることは基本です。また、地域住民にとって、発災等の場合においては、一定期間の「避難所」となる場合もあり、耐震化の完了は評価されなければなりません。

併せて、児童・生徒がよりよい環境の中で学習にいそしみ、思い出深い学校生活を過ごすことができるよう、冷暖房の整備など学習環境・教育環境の整備は、あえていえば、教育の物的環境の整備という面がないわけではありませんが、物的環境の整備は、同時に教育活動という教育の内的・質的活動に影響を与えるものでもあることから、教育環境の整備は、不断に取り組むことが求められます。

施策2 青少年の健全育成

青少年の心豊かな人間性を育む地域形成を目指し、地域・学校・家庭が相互に連絡・協力し、地域活動の体験・研修を推進する。

1 青少年教育

平成23年度の主な取組

◇ 青少年健全育成事業（944千円）

- ・ 各種会議
 - ◇ 青少年問題協議会の開催
 - ◇ 青少年健全育成センター運営協議会の開催
- ・ パトロール
 - ◇ 夏休み期間中及び九谷茶碗まつり、根上り七夕まつり、辰口まつりの際にパトロールを実施

- ・ あいさつ
 - ◇ 市内小学校5年生にあいさつ標語を募集
481作品の中から入賞作品を決定【最優秀賞（8名） 優秀賞（8名）】
最優秀賞作品については看板を作成し、各小学校に掲示
- ・ 講演会
 - ◇ 青少年健全育成講演会の開催
演題 「災害時、自分は何ができるか考えよう！～救出・救護の基礎知識～」
講師 市民防災ラボ 代表／静岡県防災士／静岡県沼津市応急手当指導員
玉木 貴（たまき たかし） 氏

◇ 心の教育関連事業（1, 891千円）

- ・ 家庭教育推進事業
 - ◇ 「親子のふれあい」や「青少年の豊かな心を育む家庭教育のあり方」をテーマに取り組んだ計41団体(保育園、小中学校、子育て関係団体)に対して活動補助
- ・ 地域教育推進事業
 - ◇ 子どもたちを核に「地域のふれあい」や「青少年の健全育成」をテーマに、1年を通して取り組んだ市内5団体に対して活動補助
- ・ ふれあいあいさつデー
 - ◇ 毎月15日を「あいさつデー」とし、各町で公民館、学校PTAを中心に実施
 - ◇ 9月1日(木)～7日(水)を強化週間として平日5日間に開催（延べ約3,200人が街頭に立つ）
 - ◇ あいさつデー啓発ポスターは寺井中学校3年生近藤佑美さんの作品を採用
- ・ 新規事業
 - ◇ 児童子育て専門部会を中心に、「夏休みわくわくキャンプ」を実施
目的：野外活動や様々な体験活動を通しての体力づくり、豊かな心の育成
集団生活を通して、自立心を高める
内容：事前オリエンテーション、トレーニングキャンプ（スタッフ研修）
アイスブレイキング（猛獣狩り）、川遊び（水辺散策）、キンボール
テント立て、夕飯作り、ハイキング、朝食作り、写真立て作り
成果：事業終了後に親と子どもの両方にアンケートを実施。下記はその一部。

子どもの感想

- ・ 川で大きい魚をとれたのがうれしかったです。
- ・ みんなでいろんな楽しいことができてよかったです。
- ・ キャンプでやまのぼりをしたのがこころにのこりました。

- ・キャンプに来て思い出にのこったのは先生がやさしかったことです
- ・キャンプで2日かんいっしょにごはんを作ったりしたのが思い出になりました。
- ・山のぼりがちょっとつかれました
- ・よる、おもしろかった
- ・親しい友だちができたし、とても楽しいのでまたやってみたいです。
- ・ともだちができてうれしかったです。
- ・ホットサンドが面白かった

親の感想

- ・疲れて帰ってきましたが、友達もできたと、嬉しそうに話してくれました。初めてだったので親の方が不安いっぱいでした。
- ・帰りの車中寝てしまい、4時間ほどぐっすり熟睡しました。暑い心配しましたが、川遊び、夕食作り、夜のお話など、沢山沢山話をしてくれました。また行きたいと言っており、夏休みの作文として、すぐその晩に書いていました。オリエンテーションで子どもも参加し、メニューを決めたりして自分たちでも企画の一部に参加する機会を作っていたことは、「子どもの意識付け」によいと思いました。暑さ厳しい中、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・新しい友達ができたととても喜んでいました。また参加したいです。
- ・一泊二日のキャンプとは思えぬ程の盛り沢山な内容で、子どもの心の中に大きな思い出が残りました。様々な活動中、違う学校のお友達に勇気を出して話しかけたら盛り上がり、すっかり仲良くなれた！！ととっても嬉しそうに話してくれました。きっと本人の大きな自信につながったと思います。自然の中で楽しく遊んだ思い出が自然を大切にすることを育むように、地域の大人達が自分達の為に汗を流し、お世話して下さる姿を、楽しい思い出と一緒に思い出すことなのでしょう…。そして人との関わりを大切だと思える子が育つと信じています。
- ・親から離れての初めてのキャンプは思いどおりにいかなくやさしさや、仲間との楽しさ、いろんな事を経験できたと思います。帰ってきてからもう一度同じ川へ行きたいと言われ、行ってきました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。
- ・川遊び、山登り、クワガタを見つけた、夕食・朝食ともにおいしかったなど、たくさん楽しかったことを話して聞かせてくれました。優しいスタッフの皆さんの名前も！！本当にお世話になりありがとうございました。帰ってきた時の顔を見て、とても満足している息子を感じました。

評価

- ・毎月15日を「ふれあいあいさつデー」として設定し、あいさつ運動を実施することにより小・中学生の規範意識を高めている。15日以外にも自主的にあいさつ運動を実施し

ている町会もあり、市民の中に浸透してきているようである。

・能美市のお祭り（根上り七夕まつり、九谷茶碗まつり、辰口まつり）と子どもたちの夏休み期間中にパトロールを実施している。実施中声かけを行うケースは稀にある程度なので、今後は時間帯の変更を検討する必要がある。

・25名を定員として野外キャンプを実施した。アンケートの結果から非常に好評ではあったが、キャンプ未経験のスタッフが多数であったので、スタッフへの負担が大きかった。スタッフの構成も含めて実施方法の見直しを図る必要がある。

○意見

毎月15日を「ふれあいあいさつデー」として設定し、あいさつが、家庭の中だけでなく、地域においても交わされるような取り組みは、明るい社会、活力ある魅力的なふるさとづくりの契機となるものであり、地域の子どもの地域総ぐるみで育てる活動とすることができます。市民の中に、漸次的に浸透しているという状況も好ましいものです。さらなる普及のための取り組みを期待いたします。

野外キャンプの取り組みは、企画、準備、実施などにおいて様々なエネルギーを費やさざるを得ない事業ですが、子どもたちの体験不足を補うとともに、子どもたちが自然や人や知恵と出会うことのできる貴重な経験となるもので、アンケートに見られるように参加した子どもたちの心や体にその体験が深く刻み込まれたことと思います。スタッフ等の事前の研修等を充実させるとともに、実施後の振り返りから得られた教訓を次回へ活かしながら、さらに継続実施されることをお願いします。

施策3 生涯学習の推進

市民一人ひとりの生きがいや心の豊かさを実現するため、学習環境づくりや公民館活動などを核とした連帯と活力ある地域づくりを推進する。

1 これからの国際化社会の中で活躍できる人材の育成と国際化の推進

平成23年度の主な取組

◇国際交流員招致事業（4,823千円）

国際交流員を招致し、保育園や学校を年間通して訪問。保育園では簡単な英会話やゲームを楽しんだり、小学校では母国の文化などの紹介により国際理解の推進を行った。また、生涯学習活動（教室、講座等）を通して活動・支援し、市民・各団体等の国際交流並びに理解の推進にも努めた。

◇国際交流推進事業（１，９１７千円）

・国際交流イベントの開催

市内小学生を対象にハロウィン、クリスマス、イースターを体験するイベントを通して、国際理解を深めた。

・外国語教室、日本語教室の開催

外国語教室として、英会話初級、ENGLISH ONLY CLASS、能美市国際交流員マークによる国際交流サロンを開催した。

日本語教室として、市内在住・在勤の外国人を対象にした「日本語教室」を開講している。

また、市内在住・在勤の外国人の生活支援を目的にした日本語講師の指導力を向上するため「日本語講師スキルアップ講座」を開催した。

・ジャパンテント

世界７７の国と地域から石川県を訪れた約３００人の留学生と県民との交流を深める「第２４回 JAPAN TENT－世界留学生交流・いしかわ２０１１」が開催された。本市では１５ホストファミリーが２３名の留学生を３泊４日の日程で受け入れた。

◇関連団体交流活動等支援（３８０千円）

市内の国際交流活動を行う７団体が相互の連携を図ることを目的に、能美市国際交流連絡協議会を結成している。市の事業と連携しながら国際交流活動を推進した。

評価

・国際交流員が中心となって、保育園、小学生、一般向けの外国文化に触れる機会を創出している。一方でジャパンテントのホストファミリーが固定化する傾向がみられるため、国際交流の裾野を広げるべく、市内国際交流団体と連携して新規ホストファミリーを開拓する必要がある。

・日本語教室（根上会場）は開講２年目を迎え、能美日本語講師会と生涯学習課が外国人を雇用する企業を定期的に訪問し、教室の周知広報および受講の働きかけに努めている。日本語講師養成講座を修了した後、指導活動をしていない／できない修了者への参加呼びかけ、新規日本語講師の育成、活動中の日本語講師のスキルアップ等を通して、市内在住・在勤外国人が日本語を学べる良質な環境を維持していきたい。

〇意見

地球的視野で考え、身近なところから取り組もうという think globally, act locally という言葉がありますが、今日、国際化への対応は、待ったなしという状況です。すでに国際交流員の招致、外国語教室、日本語教室などの事業に取り組んでおられますが、とりわけ、市内在住または在勤の外国人を対象とした日本語教室の拡充にご努力されるよう期待します。

2 生涯学習活動

平成23年度の主な取組

◇まなびフェスタ2012（1,218千円）

「広がれつながれ 人の和 能美の輪」をスローガンに、5分科会に分かれてテーマごとに意見交換を行った。また、文化活動を気軽に体験し、生涯学習への一層の興味、関心を持っていただくため、今年、初企画で6つのお試し体験講座を行いました。

No. 1 分科会

「初めてでもすぐできるニュースポーツ」

～見てみよう、さわってみよう、やってみよう～ —Let's Enjoy New Sports—

No. 2 分科会

「パパの子育て、みんなで応援」

～パパもママも、まわりの人も、一緒に話しましょう～ —パパのベビーマッサージ—

No. 3 分科会

「古代の暮らしを体験してみよう！」

～体験を通した歴史学習の実践～ —親子で楽しく古代人！—

No. 4 分科会

「あの人を笑わせよう！」

～笑いのセンスは関係なし！ネタはあなたの近くに～ —小中高生の参加も大歓迎—

No. 5 分科会

「今、大人にこそ絵本を」

～今を生きる心の糧として～ —絵本は人生に三度—

No. 6 お試し体験講座

「トラベル英会話」

～海外旅行で役立つ表現を学びましょう～ —海外知識を深めて自信をつける—

No. 7 お試し体験講座

「絵手紙のススメ」

～絵手紙とは絵のある手紙です～ —あなたの心が届くように—

No. 8 お試し体験講座

「大正琴に触れてみよう」

～曲を奏でて、心を癒しましょう～ —大正琴を楽しもう—

No. 9 お試し体験講座

「楽しく俳句をつくりませんか」

～四季の自然と生活を慈しみながら～ —自分の句を読まれる喜び—

No. 10 お試し体験講座

「折紙の代表「鶴」 祝鶴と飛翔鶴」

～子供から大人まで楽しめる折紙～ —指先と頭のコラボレーション—

No. 11 お試し体験講座

「歌のハーモニーを楽しみましょう」

～「赤とんぼ」「遠くへ行きたい」他～

—ブチ合唱を体験しましょう—

参加者アンケートから

- ・幅広い世代の方が参加しており、交流を深める場としてよいと思う。
- ・運営に携わった方々の想いや苦労が見える大会だったと思います。積み重ねて更に進化した「まなび」に期待！
- ・老若男女関係なく楽しめて大変良かった。
- ・とても充実した楽しい時間でした。学べることも多かったです。
- ・駐車場を探すほど沢山人でした。なかなか魅力的な分科会がありました。
- ・今回参加して友達に教えていきたいと思いました。
- ・初対面の方たちと楽しく過ごすことが出来ました。楽しかったです。
- ・親子祖母と一緒に参加された姿を見られ、なごやかな雰囲気も見られ楽しかった。

◇高齢者学級（394千円）

長寿社会に適応できる知識や教養を身に付け、生きがいのある生活を目指して、年6回の講座を設定し、教養、健康福祉、趣味等の講座を開催した。

☆すこやか学級 テーマ「人生を楽しく すこやかに」 6回開催

☆すえひろ学級 テーマ「いきいき 楽しい人生を」 6回開催

☆はまなす学級 テーマ「生きがいと心の豊かさを求めて」 6回開催

◇人権教育（0千円）

私たちの心から、差別意識や偏見をなくすには、その痛みや悲しみを自分のこととしてとらえることが必要であり、身近なところで起こりうる「人権問題」について考える機会として、市民対象に人権映画鑑賞を開催した。鑑賞者それぞれが自分の「限界」とは何かを考える機会を与え、その意識を啓発する。

単独での予算計上がないため、総合文化会館主催事業と合同で行った。

◇男女共同参画（574千円）

「男女共同参画社会基本法」及び「石川県男女共同参画推進条例」に基づき、能美市の男女共同参画社会の形成を図るため、『男女が、互いの生き方を尊重し、責任を分かち合える環境づくり』を総合目標とし、市から委嘱を受けた推進員が、市民への意識、啓発活動（ワークショップや出前講座など）を行っている。

- ・能美市男女協同参画推進員会

推進員 27名（県推進員含む） 任期2年

出前講座参加者アンケートから

- ・男女共同参画が実現することで命の大切さが改めて確認できればいいと思った。
- ・まずは、一つ一つの家庭から、共同参画について考えていくことがこれからの社会に大切かなと思った。
- ・男性の協力があってこそ家庭も成り立つという話が聞けて良かったです。
- ・我が家を思いながら配偶者のことももっと大切にしていきたいと感じた。
- ・さまざまな世代の方に今回の話をしていただきたい。
- ・「自分らしく」「その人らしく」で人を見つめていきたい。
- ・役割分担を決めて、得意なことをするという考えを伝えていくことが大事だと思った。
- ・それぞれに自分のできることをして、共に生活していくのが、共同参画の社会だと思った。
- ・子どもの頃からの手伝い（分担）が将来の子どもの自立につながるんだなと思った。
- ・もっと男女共同参画社会の考え方が、社会全体に広まってほしい。
- ・日常生活で無意識のうちに、ジェンダー発言をしたり、ジェンダー意識を持ってしまったりしている。
- ・子どもには、ジェンダー意識を植え付けないように接したい。

評価

- ・まなびフェスタは、身近な生活課題を中心に5つのテーマで「分科会」、さらには、文化活動を気軽に体験できる「お試し体験講座」が今回、初登場し、多くの市民が「学び」の楽しさや大切さを体験していただいた。まちじまん大会の同時開催や分科会・お試し体験講座に子どもが参加できるように小・中学生の先生と連携を取り、若年層の参加を促した。19歳以下の参加者が約3倍となり、参加者年齢層の偏りを解消できた。
- ・高齢者学級は、各地区(根上・寺井・辰口)で、それぞれ特色を有する講座になるよう、今後更なる取組みが必要である。
- ・人権教育は、市民対象に人権映画鑑賞を行い、平等な社会を築くことをめざし豊かな心の育成に努めていきたい。予算の確保が課題である。
- ・男女共同参画推進事業の中にも講師を招き、市民対象にアサーション講座（3回）を行い自分も相手も大切にしながら自己表現し、それぞれの個性を活かしながらさわやかな人間関係を育んでいく方法を学びました。

意見

学びフェスタは、地域住民の「学び」をメインにした交流の機会であるとともに、日々の学習の成果の発表の機会でもあります。多くの市民が、「昨日と違う今日の自分、今日と違う明日の自分づくりへの営み」としての学びの意義を、自らあるいは仲間とともに確認し合う機会となるものと思います。参加者層の拡大に努めたことが奏功したことは、この上ないことですし、アンケート等で寄せられた声を少しでも次回へと反映できるよう願っ

ています。

高齢者学級、人権教育の推進、男女共同参画などの事業も予算の確保など困難な状況はおありかと思いますが、併催など創意工夫しながらさらに充実した実りある事業へと展開されることを願います。

3 公民館活動の推進

平成23年度の主な取組

◇成人式(1, 880千円)

成人の日を迎える若者を祝い励ますと共に、社会の一員としての自覚を深め、社会に羽ばたいてくれることを期待して開催した。

開催日 平成24年1月8日(日) 10時から

会場・時間 辰口福社会館 10時開式

寺井地区公民館 10時30分開式

根上総合文化会館 11時開式

出席 422人 ※対象者 516人

◇立志式(180千円)

中学2年生を対象に自ら将来に臨んで志を立て、次代の社会を担うものとしての誇りと自覚、さらにこれを実践するための健康な心身をつくることを目標に持たせるため、実施した。23年度も22年度同様3中学校同時に開催した。

○式典

日時：平成24年2月13日(月) 14:00～

開場：根上総合文化会館 音楽ホール「タント」

参加人数：根上地区 209名

寺井地区 195名

辰口地区 140名 計 544名

○記念講演

講師①：國藤 進 氏 (北陸先端科学技術大学院大学 副学長 兼 東京大学客員教授)

テーマ①：「人生は、中学で決まる！～夢を育めば、誰でも発明・発見できます～」

講師②：樋口 健夫 氏 (アイデアマラソン研究所 所長 兼 電気通信大学 非常勤講師)

テーマ②：「ノートを活用すれば、人生が変わる！聞いて良かったアイデアマラソン～目を開き、耳を立て、人生を大きく、楽しくする方法を聞こう～」

○立志式講演会の感想（成果）

- ・立志式を終えて、14歳は進路を決定したりする大切なときなのだと実感しました。そして、20歳まであと4分の1何かをする時間があるとわかりました。なので、その時間で勉強も部活も今まで以上に力を入れて励んでいこうと思いました。
- ・國藤先生の話聞いて、好奇心は人生を面白くしたり、豊かにしたり、夢をつくったりすることができるのだと思いました。好奇心がなければ疑問も生まれないし、何よりも考えようと思いません。考え、研究し、継続していく力があるからこそ、成果や結果が出ることを学びました。先生が言っていた「創造的関心事」というのが心に残りました。
- ・樋口先生の話にとっても興味を持ちました。思いついたもの・ことをノートに書く！継続することが大切！たばこは絶対にだめ！どれもこれもこれから（未来）の自分のためになることだと思いました。そして毎日使っているノートの大切さに気付きました。今まで何も思わずただノートを書いていたけど、これからは自分のためになるようなノートを書いていこうと思いました。
- ・この立志式で学んだことはいつでも役に立つと思います。学んだことを生かして、夢を持つことができるよう頑張ろうと思います。好きなことにもチャレンジしていきたいです。

◇総合文化祭（1，265千円）

〈展示部門〉

- 日 程 平成23年11月3日（木・祝）～11月6日（日）
寺井図書館のみ11月13日（日）まで
- 会 場 根上総合文化会館、根上学習センター、寺井地区公民館、寺井図書館、辰口福祉会館
- 内 容 絵画、水墨画、書道、生け花などの市文化協会作品をはじめ、各地区公民館、CC館、児童館、そのほか各教室、サークル、一般の作品を展示した。

〈発表部門〉

○ジュニア文化発表会

- 日 程 平成23年10月30日（日）
- 会 場 根上総合文化会館音楽ホール「タント」
- 内 容 市内小・中学校の児童・生徒が元気いっぱい合唱や演奏を披露します。

○市民文化・芸能大会

- 日 程 平成23年11月5日（土）
- 会 場 根上総合文化会館音楽ホール「タント」
- 内 容 市内の自治公民館及び市内で活躍しているサークル・団体がこの日のために練習してきた出し物を披露した。

◇ 公民館活動(17,984千円)

○自治公民館

・能美市自治公民館協議会

期日	行事名	会場
3月9日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
6月10日	県政出前講座(おもてなし講座)	寺井地区公民館
6月12日	能美市自治公民館協議会 視察研修会	加賀市竹の浦館 他
8月4日	能美市自治公民館協議会 役員会	ふるさと研修センター
9月29日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
11月5日	第7回市民文化・芸能大会	根上総合文化会館
11月10日	能美市自治公民館協議会 研修会 懇親会	根上総合文化会館
平成24年2月16日	能美市自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
3月1日	能美市自治公民館協議会 総会	寺井地区公民館

・根上地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
1月17日	根上地区自治公民館協議会 総会	八松苑(下ノ江町)
2月18日	根上地区自治公民館協議会 役員会	根上総合文化会館
4月17日	根上地区自治公民館協議会 視察研修	輪島市黒島公民館
4月22日	根上地区自治公民館協議会 館長会	根上総合文化会館
5月29日	第6回スポーツフェスティバル in ねあがり	雨天中止
6月4日～12日	花いっぱい運動	根上地区各所
6月16日	根上地区自治公民館協議会館長会、男女参画講習会	根上総合文化会館
7月23日	根上り七夕まつり「踊りの夕べ」コンクール	根上総合文化会館周辺
8月8日	根上地区自治公民館協議会 役員会	根上総合文化会館
11月5日	第7回市民文化・芸能大会	根上総合文化会館
12月19日	根上地区自治公民館協議会 館長会及び懇親会	やわたや(大浜町)

・寺井地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
2月4日	寺井地区自治公民館協議会 総会	八松苑(下ノ江町)
4月27日	寺井地区自治公民館協議会 役員会	寺井地区公民館
6月25日	寺井地区自治公民館協議会 視察研修会	富山市岩瀬方面
8月26日	寺井地区自治公民館長・体育部長会	寺井地区公民館
10月2日	第7回 スポーツフェスティバル in てらい	寺井小グラウンド
12月18日	寺井地区自治公民館協議会 館長会	まつさき(辰口町)

・辰口地区自治公民館協議会

期日	行事名	会場
2月10日	辰口地区自治公民館長会 総会	辰口福祉会館
5月30日	辰口地区公民館事業推進委員会	辰口福祉会館
6月26日	辰口地区自治公民館長会 視察研修会	名古屋市産業記念館他
10月 2日	第7回スポーツフェスティバル in たつのくち	物見山陸上競技場
12月 3日	辰口地区自治公民館長会 研修会	辰口福祉会館

○ 地区公民館

・根上地区公民館

期日	行事名	会場
2月18日	根上地区スポーツ・文化協議会	根上総合文化会館
5月29日	第6回スポーツフェスティバル in ねあがり	雨天中止
7月23日	根上り七夕まつり「踊りのタベ」コンクール	根上総合文化会館周辺
8月8日	根上地区スポーツ・文化協議会	根上総合文化会館
11月5日	第7回市民文化・芸能大会	根上総合文化会館
11月27日	国際交流サロン in 能美2011	根上総合文化会館
12月5日	根上地区スポーツ・文化協議会	根上総合文化会館

・寺井地区公民館

期日	行事名	会場
4月26日	第1回寺井地区公民館運営委員会	寺井地区公民館
6月19日	寺井地区市民さわやかグラウンドゴルフ大会	寺井グラウンドゴルフ場
7月 3日	三世代ふれあい子ども体験まつり	寺井地区公民館
7月10日	寺井地区クリーンデー	寺井地区一円
10月 2日	第7回スポーツフェスティバル in てらい	寺井小グラウンド
10月 9日	寺井地区一周駅伝競走大会	寺井地区一円
10月 9日	寺井地区ソフトバレーボール大会	寺井体育館
10月11日～21日	健康ジョキング教室	寺井小グラウンド
10月23日	さわやかジョキング大会	和田山特設コース
12月 2日	能美市文化講演会 講師 ヨネスケ 氏	寺井地区公民館
12月 6日	第2回寺井地区公民館運営委員会	寺井地区公民館

・辰口地区公民館

期日	行事名	会場
6月12日	国際交流サロン in 能美 2011	秋常山古墳群
6月25日	能美市でホタルを見よう！「ホタルの観察会」	ふるさと研修センター
8月 2日	夏休み手作り教室「本棚づくり」	ふるさと研修センター
8月19日	木工体験「鳥の巣箱を作ろう！」	博物館
10月 2日	第7回スポーツフェスティバル in たつのくち	物見山陸上競技場
平成24年3月18日	体験教室 しいたけの植菌	博物館

評価

・公民館は、生涯学習の拠点として様々な事業を実施している。その活動は、市民の中にも根付いており、町内の自治公民館や各地区公民館で活動を実施する団体も多くある。

・成人式事業は、混乱することもなく厳粛なうちに終了することができた。毎年度、新成人を実行委員として、3地区（根上、寺井、辰口）に分かれて組織し、式典内容の企画・運営を委託している。成人宣言や謝辞、子から親への感謝の手紙は、新成人らしく、毅然とした態度で臨んでいた。スライドショーや恩師からのビデオメッセージの作成、式後に行うティーパーティの運営についても意欲的に取り組んでおり、実行委員制度は今後も継続すべきであると考えている。

・立志式事業では、3地区合同に実施することにより、予算の削減、効率的な運営に努めることができた。また、平成22年度まで当日配布のパンフレットに掲載していた名簿を平成23年度は掲載しなかったことで、学校側からも個人情報の観点から好評を得ることができた。式典中に行った「立志の言葉」では、立志者の代表らしく堂々と発表しており、まさしく志を立てるのにふさわしいものであったと感じた。式典後の記念講演も、感想通り好印象なものとなった。

・総合文化祭事業は、文化協会や児童館、コミュニティセンターなどが、この日に向けて作品を製作したり、発表会の練習をしたりしており、文化的な活動を推進するものとなっている。また、作品の展示を通して、教室の宣伝効果となっていることもあり、文化祭で講座や教室を知るきっかけとなっている。

〇意見

評価者は、公民館は、地域住民に対し学びの機会を提供する「公民の館（やかた）」であるとともに、行政や地域の各種団体・機関と地域住民との「間（あいだ）」に位置し、必要に応じて地域住民と行政とを結ぶ公民「間」、地域住民にひとや体験・自然等との出会いの場を提供しその「感性」を豊かにする公民「感」、社会のしくみや地域課題などの学びを通じて人生観や職業観などものの見方や考え方に影響を与える可能性を持つ公民「観」、地域住民に地域で生き、暮らし、働き、支え合いそして学び合う喜びを提供する公民「歓」、地域住民を強い絆で結び強固な環を形成することに寄与する公民「環」、魅力的で活力ある地

域づくりの中核的な「幹（みき）」となる場、あるいは地域づくりの担い手、リーダー（幹）を育てる公民「幹」というようにとらえています。地区公民館も「自治公民館」もそうした位置づけで事業や活動を推進していただければ、地域住民の絆やつながりづくりにより一層寄与することになるのではないのでしょうか。

成人式や立志式は人生の一つの区切りであるとともに、新たな自分のスタートの意味を持つ儀式です。実行委員会形式による成人式の企画・運営などは、実行委員をサービスの「受け手」から「与え手」の立場に転換するもので、大切な「若者育て」の機会です。

また、総合文化祭事業も、市民の日頃の活動の発表、交流の機会であり、参加者の生きがいややりがいを育てる機会になるものであり、一層の拡がりを期待します。

4 社会教育施設の運営

◇市立図書館（121, 432千円）

3館（根上、寺井、辰口）連携して、各図書館の運営方針に基づき、生涯学習の拠点として、地域に根ざした図書館づくりをめざす。

平成23年度の主な取組

- ・ 図書館資料の充実・・・3館の持ち味を生かした資料の収集
- ・ レファレンスサービスの充実・・・利用者や市民の調査、研究の援助
- ・ 読書普及活動の推進

利用状況（平成23年3月末統計）

- ・ 蔵書数 368, 964冊
- ・ 登録者数 39, 101人

平成23年度の新規事業

◇市立図書館 職員提案 図書館利用拡大事業（1, 000千円）

図書館がより「本と人」「人と人」「人と知」が出会い、交流する場となることで能美市の暮らしやすさを向上できるという意図のもと、下記事業を企画実施した。

- 根上図書館・・・ビジネス支援事業
- 寺井図書館・・・子育て支援事業
- 辰口図書館・・・合格図書館
- 3図書館・・・無線LAN化

◇根上総合文化会館（64,562千円）

市における文化の振興を目的に、その情報発信基地として機能するための施設として様々な事業を行っている。特に日本で初めて可動音響庇を採用した本格的なシューボックス型の音楽ホール「タント」では、市主催事業をはじめ様々な催し物が開催され、704席すべての客数へ迫力ある澄んだ音色を響かせる。

利用状況（平成23年度）

年間利用者件数 2,770件

年間利用者数 127,534人

◇根上学習センター（30,185千円）

宇宙といん石をテーマとした「子ども宇宙科学室」、茶室「松海庵」、「国際交流サロン」のほか「根上図書館」を含めた様々な学習施設からなる生涯学習の複合施設として、幼児から高齢者までが集い、学習や交流を深めることを目的とする。

◇青年の家（17,798千円）

青少年やその他の団体の集団宿泊訓練や共同学習の場として、規律ある活動を通し健全有為な人間教育を図る施設として多くの方々に利用されている。主催事業として、12月と2月の2回、ジュニア・チャレンジャー合宿を実施した。

◇青少年ホーム（1,238千円）

各種講座やサークル活動の場として利用されている。

特に近年はパソコン講座が人気で定員を大きく上回る申し込みがある。

「佐々木守メモリアルルーム」には郷土出身の脚本家佐々木守さんの蔵書や遺品が常設展示されている。

評価

市立図書館

・図書館運営方針に基づき、予算の有効活用と3館の特色を生かしたバランスある資料収集に努めている。

・「能美子ども読書活動推進計画」に沿って、年代に応じた読書活動の推進に努めている。活動内容としては、乳児へのブックスタート事業、保育園へ出張おはなし会、小中学校への移動文庫やブックトーク等を実施し、各機関との連携を図っている。

・図書館利用拡大事業（新規事業）への取り組み

・根上図書館「ビジネス関連本の書架設置」

高校生や大学生、また、子育て世代を対象にした就職活動関連本の書架を設置した。

また、ビジネス関連新着図書をホームページや館内で掲示。昨年比で150冊弱の貸出増加（社会・技術分野の図書）

・根上図書館「商工観光課企業誘致推進室との連携による企業へのPR」

上記推進室職員が企業訪問時にビジネス支援ポスターの配布を行い、企業案内パンフレットの寄贈を依頼し、図書館館内で掲示した。

・根上図書館「ミニ講演会」

就職や専門学校進学希望の寺井高校生を対象に職業選択の意識付けを目的とした講演会を開催。地元講師（小松精練元総務部長 由田哲也さん）による講演に57名の高校生が参加した。

・根上図書館のビジネス支援では、ビジネス書を多く購入したことで休日や夕方によくのビジネスマンが来館するようになった。無線LANを使つての個人勉強をする人も多く見受けられる。子育てが終わり、再就職をめざすお母さん向けのコーナーも多くの利用がみられる。

・寺井図書館「赤ちゃんとたのしむおはなしコンサート」

音楽と物語を親子で楽しむひとときを提供し、ゆったりとした時間を共有してもらった。

・寺井図書館「ミュージックデイ」

「図書館=静かにしなければならぬ場所」というイメージで、図書館を利用しにくい親子に向けて、あえて館内ミュージックを流した。予想されていた常連利用者からの苦情もなく、親子にも好評だった。

・寺井図書館「家庭・育児書の書架の見直し」

保護者が子どもの目に届くところで、本を選べるように、家庭分野の図書を児童書架の横に移動した。

・親子支援に重点を置いたことが定着しつつある。家庭分野の図書を移動したことで「使いやすくなった」の声を頂いた。

・辰口図書館「合格講演会」

辰口中学校3年生対象に先端大学教授による勉強方法を中心とした講演会を開催。

・辰口図書館「合格図書館」

12月下旬～3月初旬までの24日間（冬休み、土日）、2階研修室を学習室として開放。先端大学学生に支援員をお願いし、自己の経験や意見をまとめたアドバイス集を合格図書館利用者に配布。期間中はのべ142人が利用。

・受験期間は多くの学生が図書館を利用するが、集中して勉強する人が合格図書館を利用していた。「集中できた」の声アンケートで多かった。アドバイス集は利用者からも好評で、問い合わせも20件近く寄せられた。また、3月には「合格できた」と報告に来館する学生も5人いた。

根上総合文化会館

・音楽ホールについては、市内外を問わず吹奏楽を中心として様々な団体に利用していた。また、音楽関係に限らず、式典・演劇・和洋舞踊等様々な行事に利用していた。主催事業についても、歌謡・演芸・講演・洋楽と様々なイベントを企画運

営し、多くの方に楽しんでいただいている。円形ホールでは、展示会を中心としてレクリエーションや太鼓の練習等にご利用いただいている。小ホール・会議室・研修室・楽屋では研修会や講座、サークル活動等にご利用いただいている。全体として、音楽ホール「タント」を中核として音楽のみならず様々な活動に利用してもらうことにより多くの市民に利用される施設としていきたい。

根上学習センター

・児童・生徒の科学に対する興味、関心を高めるために主催事業について金沢大学名誉教授を指導顧問に、教職員、星の会、根上いん石に関係する皆様に委員になっていただき、企画運営について検討をいただき、それに基づき主催事業を実施している。能美市は根上いん石が自動車に落下したところでもあり、小学4年生を対象とした星空といん石学習、中学3年生を対象としたいん石学習、プラネタリウムでの星空学習をとおしてはるか遠き宇宙を身近に感じて一人でも多くの児童・生徒が宇宙に関心を持っていただけるように、さらにはおもしろ科学教室、ガリレオクラブを通じて科学への興味を持っていただき、ひいては学校教育の一助になればと指導される先生方を中心に教室の運用に力を注いでいる。またプラネタリウムを使つての星空教室、当館の屋上で望遠鏡を使つての星空観察会は、わけ隔たりなく希望する方々を対象に、星の会の皆様に星空の解説をお願いして実施しています。また、夏休み期間にはサイエンスフェスタと銘うって小学校の先生方、大学の名誉教授による科学の実験、実演、根上いん石の展示、科学の遊び「エクスプロラトリウム展」、おもしろサイエンスショーの実施により、子どもたちに科学をより身近に、楽しく感じてもらえるように努めている。子どもたちが科学への関心を高めていけるように、今後とも主催事業の企画運営に努力していきたい。次に、市民交流の場としての白山が眺める茶室「松海庵」においては一般呈茶会、ジュニア茶道教室等に使われている。また、国際交流サロンの前室には姉妹都市シェレホフ市から贈られた記念品、調印式等の記念写真等が展示され、さらに根上中学校の姉妹校である培材中学校から贈られた記念品等も展示されている。他の施設は市民の交流の場としての研修室、生涯学習の教室として使われている。今後とも施設の活用が十分に図られるよう努めていきたい。

青年の家

・施設整備として、空調設備や内装工事等に着手し、利用者が安全・安心に利用できるように図った。来年度は体育館を整備し、心身共、利用者に安全で安心のある場を提供したい。今後とも、青少年の健全育成の一助となるべく、利用者が次回も利用したいと思えるよう努力している。

勤労青少年ホーム

・利用者層をみると高齢者の団体が多いので、当初の計画でもある勤労者への利用促進を図るよう努める。

○意見

今年度、市内の根上、寺井、辰口の各市立図書館、根上総合文化会館、根上学習センター、青年の家及び勤労青少年ホームの各社会教育施設が、実施している事業をこのような形で自己点検・自己評価したことは、意義あるものと思われます。もちろん、それぞれの施設の役割は、異なっているものの、地域の方々の多様なニーズに応えようと努めている姿をうかがい知ることができます。例えば、ビジネスマン支援事業、子育て支援、合格図書館など図書館ならではのユニークな取り組みとすることができるのではないのでしょうか。

市内の社会教育施設が、より一層の連携・協力の可能性を追求し、強固なネットワーク化を図るとともに、市内の学校や教育委員会所管以外の施設とも連携しながら事業を展開されるよう期待いたします。

施策4 芸術・文化の振興

文化財の保護・活用・継承と文化活動の奨励等により、芸術と文化の薫り高いまちづくりに向けて、文化意識の高揚を図る。

1 文化財の保存と活用

平成23年度の主な取組

◇能美古墳群活用推進事業（新規事業・2,050千円）

①秋常山古墳群保存整備完成記念シンポジウム

平成22年度に保存整備事業が完了した史跡秋常山古墳群を、より広く市民に周知、理解してもらうため、9月23日（日）にシンポジウム「秋常山古墳群ー1600年の時を越えてー」を開催した。シンポジウムに先立ち行われた古墳見学会では、シンポジウム講師による古墳の概要や歴史的な謎について解説していただき、普段とは一味異なる見学会となった。シンポジウムでは考古学を代表する4名の先生方をお迎えして、3本の講演とパネルディスカッションを開催した。発見時の状況から発掘調査の成果、歴史的意義や今後の活用方法について数多くの指摘や貴重な提言を頂き、古墳群への理解をより深めるいい機会となった。当日は市内外より約300名の参加者を得ることができ、出土品を含めた展示コーナーの設置や「秋常山古墳弁当」の販売なども合わせて行い、和やかなムードのなか盛大に保存整備の完成を祝うことができた。

②秋常山古墳群保存整備完成記念特別展示

10月1日（土）から11月6日（日）の約1ヶ月間にわたって、能美市立博物館で秋常山古墳群保存整備完成記念特別展示「秋常山古墳群と能美市の古墳時代」を開催した。秋常山古墳群の発見から保存整備完成に至る歩みを振り返るとともに、秋常

山古墳群をはじめとする市内の古墳から出土した遺物を一同に展示し、能美市の古墳時代を総合的に紹介する内容とした。復元模型の製作などわかりやすい展示になるよう工夫するとともに、模型製作の様子を新聞等で報道することで展示や整備完成の周知にも努め、約1,700名の来館者を得た。

③秋常山古墳群常設展示コーナーの設置

秋常山古墳群の恒常的な周知を図るため、能美市立歴史民俗資料館に常設展示コーナーを設置した。古墳群の発見から保存整備工事完成までの様子や発掘調査の成果などを解説したパネルとともに、古墳築造時の状況を再現した1/100サイズの模型を展示した。

④普及冊子の作成

秋常山古墳群保存整備完成記念シンポジウムに合わせて資料集を作成し、発掘調査の成果等を広く公開した。また、シンポジウムの講演内容やさまざまな提言を残し、今後の活用に資するため記録集を刊行した。

さらに秋常山古墳群をはじめとする能美市の古墳について、子どもたちによりわかりやすく知ってもらうために「秋常山古墳群子ども用ガイドブック」を作成し、さらに既存のリーフレットの内容が古くなったことから「能美古墳群リーフレット」を新たに作成した。

全体的な課題として、本事業を開催したことで周知面での効果はあったが、来園者数の把握及び本事業によって実際にどの程度の見学者増につながったのかについての検証方法に課題を残した。

◇職員提案 能美古墳群活用推進事業（新規事業・5,000千円）

①花の植栽

平成23年度に史跡公園としてオープンを迎えた秋常山古墳群の魅力をさらに高め、観光資源として積極的な誘客を目指して、園内及び周辺に花の植栽を行った。園内には彼岸花2,300本、アジサイ3,150本を植え、隣接する農村公園内に芝桜や水仙300本を植えた。植栽作業には地元町民や市内小学校、各種団体の参加により実施し、花を通じて古墳への愛着を深めてもらうとともに、新聞記事等に掲載することで秋常山古墳群のアピールにも繋げた。また、秋常町、秋常町営農組合の協力を得て、隣接田1haに菜の花の栽培を行った。平成24年度以降、四季折々の花が楽しめる史跡公園となり、開花に合わせた各種イベントの開催なども計画しながら今後より一層の活用を図っていきたい。

②ボランティアガイド養成講座

秋常山古墳群を観光資源として積極的に活用すべく、来園者がいつでも古墳の解説を聞くことができるような体制づくりを目指してボランティアガイドの養成を開始した。今年度は教員退職者8名を対象に月1回の講座を開催し、古墳の基礎的な学習や市内の古墳めぐり等を行った。

また、2月12日に開催された「まなびフェスタ」において古代体験コーナーの分科会を立ち上げ、古代体験の実践的な練習の場として、今後、ガイドのなかでどのように取り入れていくか検討を行った。

③普及冊子の作成

能美市の古墳や文化財について、より広い地域や市民層に周知、活用してもらうために「古代アドベンチャー-No-Mi ステリープランナー（小中学校向け案内パンフレット）」と「能美市文化財マップ」を作成した。

◇史跡和田山・末寺山古墳群法面復旧工事（14,554千円）

平成18年7月の集中豪雨により毀損した国指定和田山・末寺山古墳群内の和田山北側法面について、保護工事を行い史跡の保全を図った。

◇市指定文化財説明板設置（790千円）

市指定天然記念物宮竹日吉神社社叢及び市指定無形民俗文化財吉原釜屋盆迎えおしよらいの説明板について、老朽化及び一部内容変更に伴う建て替えを行った。

評価

・国指定史跡秋常山古墳群の整備完成周知を目的とした記念シンポジウム及び特別展示では、多くの参加者、来館者を得ることができ、さらに、広報、ポスター、新聞等で事業の告知をすることで効果的な宣伝に繋げることができた。

・ガイドブックの作成や常設展示の設置を行ったことで、見学者がわかりやすく古墳について学べる環境を整えることができた。

・さらに、周辺田での景観作物（菜の花・コスモス）の栽培やボランティアガイド養成講座の開催、県内小中学校への案内パンフレットの配布を行い、次年度以降の活用に関わる施策を展開することができた。

・今後の課題としては、見学者の人数や要望を把握する体制を整えて利便性をより高めるとともに、ボランティアガイドの運営方法や各種イベントの開催、維持管理を含めた地元住民の関わり方等を検討し、地域に愛される史跡公園、多くの見学者が訪れる観光地とするため継続的、長期的な視野に立った活用事業を展開する必要がある。

〇意見

秋常山古墳群は、評価者も訪れ、見事なまでに整備された状況を拝見させていただきました。他の和田山古墳群や末寺山古墳群も同様の方向での整備の可能性があるのでどうかについて、評価者は不知ではありますが、国の補助制度等についてその積極的な活用を目指し研究していただきたいと思っております。

昨年の点検・評価書でもコメントさせていただきましたが、文化財は、市民共有の財産であり、能美市の「価値あるもの」であり、金銭に換えることのできない「富」であり、

それゆえ、文化財は、後世へと引き継がれるべきものです。

また、多様な市民の学習成果を発揮する場として、市民ボランティアによる文化財解説、古墳群解説、古墳群維持など市民参加の可能性についてもお検討願います。

なお、文化財は、文化・教育資産としての側面と観光資産・資源としての側面を合わせて有している場合があります、市の観光交流担当課等とも連携しながら、その発信についても検討していただきたいと考えます。

2 博物館の活動

◇展示・教育普及事業（1, 845千円）

①ギャラリー

月	展観名	開催期間		入場者
4	市内保育園児による 僕のわたしの電車の絵展	4月10日(日)	4月17日(日)	463
4	北國写真連盟 小松・能美支部展	4月23日(土)	5月5日(木)	514
5	新保隼夫 写真展 「富士に魅せられて」展	5月16日(水)	5月27日(日)	1,181
6	辰口絵画クラブ 「辰口の風」展	6月1日(水)	6月12日(日)	619
6	能美市美術作家協会絵画部 第12回 N展	6月16日(木)	6月26日(日)	486
7	能美市写真協会合同写真展	6月29日(水)	7月10日(日)	503
7~8	夏季特別展 佐々木守没後5年 「戦後ヒーローの肖像」展	7月30日(土)	8月28日(日)	2,159
9	辰口水墨画展	9月3日(土)	9月11日(日)	308
9	東 孝太郎 作品展	9月15日(木)	9月25日(日)	529
10 ~11	秋季特別展 「秋常山古墳と能美地域の古墳」	10月1日(土)	11月6日(日)	1,614
11	浦昭子・今井三津子 折紙・パステル・クレヨン画	11月11日(金)	11月20日(日)	409
12	福島健介写真展 「日本一の自然百景」	12月1日(土)	12月14日(金)	768
1	船木大介作陶展	1月7日(日)	1月22日(日)	635

2	辰口写楽会展 2011	2月5日(日)	2月19日(日)	578
2~3	辰口押し花教室合同作品展	3月2日(金)	3月18日(日)	581
3	眺望 白山写真展	3月21日(水)	4月1日(金)	1,041

12,388名

②ふるさと講座 対象：一般

回	期 日	テ ー マ	参加者
第1回	5月21日(土)	手取川の洪水で消えた村 講師：大島 喜昭	24
第2回	7月23日(土)	能美の方言を考える 講師：後 泰夫	25
第3回	9月10日(土)	高度成長期の根上地区の商工業 講師：石川 友之	25
第4回	10月22日(土)	第1回和田山古墳発掘調査について 講師：松田 義雄	20
第5回	11月9日(土)	蟹淵の植物 講師：安田二三男	23

117名

③博物館講座・野外体験

講座名	期 日	講 師	参加者
能美市の古墳 「よみがえる秋常山古墳群」	4月20日(日)	歴史民俗資料館 菅原 雄一学芸員	65
自然観察会 「能美の野鳥を楽しもう」	第3土曜日 5月より10回	日本野鳥の会石川支部 高 剋宏・高 文子	80
能美市でホタルを見よう ホタルの話と観察会	6月25日(土)	石川むしの会 石川 卓弥	130
座談会 佐々木守を語る シナリオ作家への道 その原点	7月31日(火)	小松高校演劇部同窓生 松田章一(ふるさと偉人館館長) 清水一與・松田京子	70
ウルトラマン先生の スペシャルトーク	8月6日(土)	北海道苫小牧中学校教師 神谷 和宏	100
佐々木守作 「こおろぎ橋」朗読	8月21日(日)	たんと朗読倶楽部	90
夏休み工作教室 本棚づくり	8月2日(火)	中 正次	24

鳥の巣箱づくり	8月18日(木)	中正次、久保出 寛之	19
キノコの植菌体験	3月18日(日)	能美の里山ファン倶楽部会員等	40

618名

④団体見学の受け入れ	博物館	資料館	()内は22年度
学校教育	33(18)件	4(10)件	
福祉関連	28(43)件		
一般	7(17)件	10(5)件	

⑤辰口保育園の博物館の日

トンボ観察会、施設見学、雪でアイスクャンデーづくり など11回

⑥博物館実習生の受け入れ 特別展示関連行事の準備など

期 間：平成23年8月2日(火)～8月10日(水)

実習生：京都女子大学文学部史学科 4回生 1名

◇調査・収集記録事業(875千円)

①生物生息調査

能美市内の哺乳類調査 24回

22年度の調査成果報告書の刊行

「能美のこん虫観察 2011」 300部

②新収集資料

寄贈 東 誠(出口町)	彫刻「KUMONO ITO」「あした」
米林 甲陽(京都府)	米林勝二作 彫刻「少女像」2点
村上 繁(松が岡)	秋常山古墳埴輪レプリカ
表 佳一(仏大寺町)	宮田耕二作 水彩画「秋常山古墳」

評価

・展示・教育普及事業に関しては、地域の博物館であるという使命を第一義として、地元作家、地元輩出の偉人、ふるさとの歴史などをテーマに企画展、講座を企画している。しかしながら、能美市合併直後をピークにして入館者数は減少傾向にあり、より広域へ訴求力のある企画を実施する必要性を痛感するも、施設の設備面(展示ケースの不足、調湿等資料管理上の問題など)の対応できていない部分もあり、「できる範囲内」の企画に留まらざるを得ない。より一層の企画力、発想力が求められるものである。一方で、学校関係の団体見学は増加傾向にあり、保育園の日も充実するなど地域の博物館としての基本は押さえられている。

・調査・収集事業については、毎年継続している市内の動植物調査を完結させるものとし

て哺乳類調査を実施、また、昆虫類の調査成果をまとめることができた。これらを調査のみで終えるのではなく、博物館協議会等でも議題に上げられているとおり、翌年以降の展示事業に反映させる必要がある。

○意見

博物館は、施設の設備面での課題があり、館活動上、一定の制約があるように見受けられますが、地域住民に社会教育的影響を与える教育の機関として、様々な工夫をしながらその機能を発揮しているように思われます。

住民の学びの成果を発表する機会の提供、講師や解説員として協力していただく参加型の企画、さらには知的好奇心に溢れた子どもの育成に資する企画、科学技術に関する知識や能力を高める取り組み、環境問題に関する理解の促進、能美市の産業振興、地域振興や観光振興に寄与する企画、市内のいしかわ動物園等との連携事業など、地域文化や生涯学習・社会教育の中核的拠点としての機能の発揮が今後とも期待されます。

3 文化振興

平成23年度の主な取組

◇第20回記念能美川柳大会兼第18回市民川柳大会（1,190千円）

日 時 平成23年7月9日（土） 11:00～16:00

会 場 能美市根上総合文化会館 音楽ホール「タント」

内 容 第20回記念NHK学園生涯学習フェスティバル能美川柳大会
第18回市民川柳大会（小学生・中学生・一般の部の3部門）

受賞者

●市民川柳大会の部

特選

「参観日 母が後ろで はたをふる」	浜小4年	津軽 祉己
「日の丸が 人のきずなを 熱くする」	寺井中3年	西田 郁香
「権力へ なびかぬ旗が 凜と立つ」	火釜町	米田 久美子
「夜桜を かすかに照らす 春の月」	辰口中央小5年	金井 萌瑠桃
「被災地を 優しく照らす お月様」	寺井中2年	八野 茉莉
「どっぷりと ワイングラスへ 溶かす月」	大成町	今村 久栄

●能美川柳大会の部

能美川柳会長賞

「武装解く 地球はきっと 光り出す」

能美市文化協会会長賞

「しみじみと 思う誰がため 金はある」

北國新聞社社長賞

「実権を 握ってからの 孤独感」

石川県川柳協会会長賞

「命日の 禱り年毎 深くなる」

全日本川柳協会会長賞

「海の日 海に向かって 祈ろうよ」

能美市議会議長賞

「幸せを ちいさな荷物に して贈る」

石川県教育委員会教育長賞

「荷を解けば 母一色の 膳になる」

石川県知事賞

「赤でない 少しピンクの 嘘が好き」

NHK 金沢放送局長賞

「がんばって 下さいとしか 言えなくて」

能美市教育委員会教育長賞

「花時計 みんな実って ほしい恋」

能美市長賞

「抱きしめて 母は心の 闇を解く」

大会大賞（当日投句）

「いい挙式 だったとほっと 帯を解く」

「千羽目の 次一羽目の 鶴を折る」

◇文化連盟・協会（5, 062千円）

文化活動を行う各種団体相互の連絡を図り、相提携して文化向上に寄与することを目的とする。加盟協会は計38協会。

◇民俗芸能保存伝承（800千円）

郷土芸能の保存・伝承に取り組むことにより、後継者の養成、地域社会の活性化、世代間交流の回復に寄与することを目的とする。保存会は計15団体。

評価

・川柳大会へ、全国大会では5, 100句、市民大会では8, 381句（2題）の投句があり、当日も多くの市民が観覧し賑わった。

・文化連盟・協会への補助を行うことで経済基盤が脆弱な団体の活動が活発になり、文化祭や美術展、発表会などで市民に成果を発表し、市民の文化意識が向上している。

・小中学生対象に年2回行っている席書大会や、市民からの作品を募集して発刊する文芸能美など、連盟・協会以外の方が参加できる機会をもうけることにより、市全体の文化発展に寄与している。

・民俗芸能保存会への補助を行うことで、教室や練習会を開催し、研鑽した日頃の成果を能美市の祭りやイベントなどで積極的に披露することにより、伝統文化を守り伝えている。

○意見

長い歴史と伝統の継承により広がっている能美市の川柳大会は、川柳の魅力を市の内外へと発信するものとなっています。この川柳を、市を訪れた方へも普及するような「投句ボックス」を市内の拠点施設に設置するなど、さらなる「川柳のまち能美市」をアピールする取り組みなどはいかがでしょうか。

文化連盟・協会・保存会等への支援は、やはり今後とも必要な取り組みであると思われます。そうした団体等の活動が市内にそして市民の間に文化的雰囲気醸し出していることは紛れのないことでもあります。

施策5 生涯スポーツの推進

市民の運動やスポーツのニーズに応じて、障がいを持たれた方も含む、市民一人ひとりが自己の生活や目的にあった、一生涯スポーツに親しんでいく運動やスポーツ活動を取り入れたライフスタイルの構築を図るために、誰もがスポーツやレクリエーションなどの運動に親しめる、安全で効果的に活動できるスポーツの環境づくりを積極的に進めた。

1 競技スポーツの充実・強化

平成23年度の主な取組

◇県民体育大会への選手派遣（3,621千円）

白山市を主会場に南中地区南1市1町で開催された県民のスポーツの祭典である「石川県民体育大会」に能美市を代表して参加する選手を派遣し上位入賞するための補助を行った。

◇能美市民体育大会（1,070千円）

広く市民の間にスポーツを振興し、スポーツ精神の高揚と選手の発掘と育成強化を図ることを目的に、6月を中心に市内各施設を利用して開催され、今年度は20競技が開催されその運営補助を行った。

◇全日本競歩能美大会（10,712千円）

アジア最高峰の大会である「アジア陸上競技選手権大会20km競歩」を兼ねるとともに、「第6回日本学生20km競歩選手権大会」を併催し、また今年オリンピックの開催年であり「第30回オリンピック競技大会（2012/ロンドン）代表選手選考会」にも位置づけられ大会に8部門計324名のエントリーのもと開催された大会の運営費として補助を行った。

期 日 平成24年3月11日（日）

場 所 能美市営20km公認（2km周回）コース

◇第55回全国銃剣道能美大会（420千円）

銃剣道競技の地方で開催される唯一の全国大会として、例年全国各地の精鋭が集まる大会であるが、今回は平成23年3月11日に発生した東日本大震災の復興活動に、主たる選手の自衛隊員がその支援活動に関わるため今大会は中止した。

評価

・県民体育大会への選手派遣及び市民体育大会については、競技力の向上強化や市民のスポーツ競技への関心と振興を図るためのその運営費として、能美市体育協会へ補助金として交付しているものであり、県民体育大会は、男子総合で順位を一つ下げたが、女子総合では一つ上げる結果になったことは、今後の練習への励みに繋がったところであり、今後もその運営に体育協会が引き続き活動できるよう連携・支援を行う必要がある。

・全日本競歩能美大会及び全国銃剣道大会は全国大会でありながら特殊性のある競技でもあることから、馴染みの薄い競技ではあるものの競歩大会はアジア選手権を兼ねる大会でもあり年々選手の参加数の増加やレベルも非常に高いものになってきたと共に、選手や大会関係者からは能美市の応接について好評を得るなど、能美市の知名度アップに大きく貢献しているが、全国各地から選手が集う大会でありながら、応援を含め市民の関わりが非常に薄いため、市民が大会に関われる仕組みづくりや競技の周知方法が検討課題である。

意見

県民体育大会や市民体育大会は、スポーツ活動に携わる方にとって、日頃行っている練習の成果を発揮する機会です。大会への参加や開催に向けた支援は、選手層の拡がりやスポーツの普及や振興に寄与する面もあることから、今後とも継続的な取り組みを求めたいと思います。

また、全日本競歩大会、銃剣道大会は、能美市にしっかりと定着した大会ではありますが、市民の中では、これらへの係わり度合いが、今ひとつという状況であるという自己評価ですが、「競歩のルール」、「銃剣道の魅力」というテーマでの講座などで、その基本について学ぶ機会が市民向けに提供されるのも認知度を高めることにならないでしょうか。

2 生涯スポーツの普及・振興

平成23年度の主な取組

◇ジュニアスポーツクラブ活動（5,469千円）

スポーツを通して健全な青少年の育成を図るとともに、各競技の技術力の向上及び底辺の拡大を図るため、市内46クラブの活動を支援している。

また、各クラブ間の連携、交流や親睦を図るためのリーダー研修やスポーツ交流大会を開催、指導力の向上を目的に指導者研修会を開催し、クラブ全体の円滑な運営を図っている。

◇高齢者健康クラブ活動（891千円）

運動の機会の少なくなる高齢者の方々に健康、体力保持を目的として開催する教室であり、市内3クラブ約200名の高齢者が3会場に分かれ、ダンスや体操を行っている。県の交歓大会や普及育成会等に参加する等、3クラブはもとより市外の健康クラブとも交流を図っている。

◇スポーツ教室「からだバランス塾」（5,625千円）

スポーツを定期的実施する機会を提供し、スポーツをライフスタイルに取り入れることにより、体力の向上、精神的ストレスの発散や生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康保持増進を図ることを目的として、エアロビクス、ヨガやサルサダンスなど様々な教室を前期後期に分け一年をとおしたプログラム実施している。

今年度は前年度より前期後期とも1教室増やし市民の方への機会の提供を図った。

前期（4月～9月）13教室 延べ310名参加

後期（10月～3月）13教室 延べ357名参加

評価

・ジュニアスポーツクラブ活動については、46クラブへの助成金による支援を中心に実施しているが、クラブによっては規模、活動時間数や指導者の人数及び質等が様々であることから助成金の使用用途が適切であるか検証する必要があるものと思われる。

・高齢者健康クラブ活動及びスポーツ教室「からだバランス塾」についてはともに参加される方が固定化しつつある。高齢者クラブについては運動の継続性が大切であることから固定化することには問題がないが、会員増加が見られないことに対してその理由を調査する必要があると思われる。

・「からだバランス塾」は新たなエクササイズやダンスを積極的に取入れ、市民への機会提供に努めことにより定員数を上回る参加希望を得ることができた。ただ初期の目的を達した教室については、参加者の希望があれば今後サークル化し自主的に運営できるよう手立てを講じ、運動の継続化と参加者固定化の改善に対応する必要がある。

・今後もそれぞれの活動が、地域に根ざしたクラブとして活動できるよう連携・支援を行う必要があり、子どもから高齢者までのニーズの把握や周知方法などの検討課題もある。

○意見

子どもから高齢者にいたる多くの市民が、生涯にわたって自分なりに親しむことのできるスポーツを持つことができることは、生きがいつくりや健康・体力づくりにつながるものです。

ジュニアスポーツクラブの交流促進、研修会開催等への支援、高齢者健康クラブ活動への支援、さらにはスポーツ教室「からだバランス塾」の通年での開催など、今後とも生涯スポーツの普及・振興にさらに取り込まれるよう願っています。

なお、助成を受けている団体においては、その原資（助成金）の源は、市民の浄財から発しているという認識を持つ必要があります。その意味においても、経費の執行においては、適正・適切かつ効果的に行わなければならないという高度な自律性が求められます。

3 スポーツ施設の整備充実

平成23年度の主な取組

◇能美市物見山陸上競技場改修工事

- ・ウレタンオーバーレイ工 A=7,592 m² ・走路新設 N=2箇所
- ・インフィールド芝改修工 A=7,610 m² ・アウトフィールド改修工 A=1,323 m²
- ・附帯施設工 N=1箇所

◇能美市物見山陸上競技場照明設備改修工事

- ・照明架台基礎改修工 N=一式 ・照明灯改修工 N=一式

◇能美市根上翠ヶ丘運動公園遊具設置工事

- ・コンビネーション遊具設置 N=1基 ・鉄棒（三連）設置 N=2基

◇能美市翠ヶ丘いこいの広場藤棚改修工事

- ・既設藤棚撤去 N=2箇所 ・藤棚新設 N=1箇所

◇根上ふれあいプール水処理施設機器改修工事

- ・ろ過装置ろ材入替 N=一式 ・塩素自動供給器取替 N=1台

◇能美市寺井体育館手すり改修工事

- ・観覧席手すり嵩上げ工 L=101.0m ・防護手すり設置工 L=24.4m

◇泉台ソフトボール場外1施設グラウンド不陸整正工事

- ・泉台ソフトボール場不陸整正工 A=3,000 m²
- ・根上野球場不陸整正工 A=3,000 m²

◇能美市物見山野球場グラウンド改修工事

- ・内野補修工 A=3,200 m² ・芝生切下げ工 A=230 m²
- ・ファウルライン補修工 N=一式 ・附帯施設工 N=一式

◇能美市物見山野球場グラウンドフェンス塗装工事

- ・グラウンドフェンス塗装（コンクリート面） A=576.0 m²
- ・グラウンドフェンス塗装（鉄鋼面） A=8.1 m² ・文字塗装 N=7文字

◇泉台ソフトボール場ベンチテント改修工事

- ・既存ベンチテント撤去 N=1基 ・ベンチテント新設 N=1基

◇その他 25件の工事実施

◎改修工事費総額 184,040千円

評価

- ・能美市物見山陸上競技場が日本陸連2種公認競技場としての継続更新のため大規模な改修を行った。これにより市内市外を問わず陸上競技の競技力向上と、更に市民のランニングやウォーキングの関心が高まるものと思われる。
- ・各施設において経年劣化による破損修繕及び改修が必要となっており随時計画的に修理していく必要がある。また藤棚の改修や遊具を設置することで親子でも楽しめる施設としても改良したことで利用者の増加も期待できそうである。
- ・施設の修繕や改修工事においては競技スポーツに限らず、市民の生涯スポーツへの支援も含め、安全で快適に利用できる施設整備を図っている。

〇意見

評価者は、物見山陸上競技場の整備状況も視察させていただきましたが、市民ではなくても、誰もが、一度は走ってみたい競技場、と思うのではないのでしょうか。

スポーツに親しむことのできる施設設備の安全の確保、利便性の向上などのための耐震化、照明設備の改修など、利用者の期待に即応した設備の充実に努められるよう期待します。

教育委員会会議及び教育委員の主な活動

1 教育委員会会議

14回開催 (開催日及び審議決定事項)

{ 議案 29件 }

平成23年度教育委員会会議開催状況

回 (開催日)	審議決定事項
平成23年第4回 (H23. 4. 7)	報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・能美市教育行政の基本方針について ・教育委員会事務局各課事務分担について
平成23年第5回 (H23. 5. 13)	議案第10号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の認定について 議案第11号 能美市立辰口学校給食センター管理運営規則の一部を改正する規則について 議案第12号 能美市立辰口学校給食センター運営委員の選任について 議案第13号 能美市社会教育委員の選任について 議案第14号 能美市文化財保護審議会委員の選任について 議案第15号 能美市博物館協議会委員の選任について 議案第16号 能美市図書館協議会委員の選任について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアスポーツクラブ結団式について ・市体育協会総会について
平成23年第6回 (H23. 6. 2)	議案第17号 平成23年度能美市一般会計の教育関係6月補正予算の要求について 議案第18号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度能美市姉妹都市交流事業について ・学校計画訪問及び学校教育懇談について ・平成23年度 Nomi フォローアップスクールについて ・第7回市民体育大会開会式について ・東レアローズバレーボール教室について

<p>平成23年第7回 (H23. 7. 20)</p>	<p>議案第19号 能美市就学援助費支給取扱規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第20号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>議案第21号 能美市県費負担教職員の自家用車の公務使用に関する要綱の一部を改正する要綱について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜小耐震工事及び福岡小温度復旧工事の予定について ・平成23年度学校教育懇談会の日程について ・夏期教職員研修会 “活” in 能美市 2011 について ・石川県中学校体育大会（出場一覧）について ・能美市民川柳大会及びNHK学園川柳大会の結果について ・佐々木守没後5年特別企画展について ・JAPANESE in 能美について ・第63回石川県民体育大会の応援等について <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <p>ふるさと・地域の良さを知る教育を推進してほしい</p>
<p>平成23年第8回 (H23. 8. 26)</p>	<p>議案第22号 平成23年度能美市一般会計の教育関係9月補正予算の要求について</p> <p>議案第23号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各小中学校運動会日程について ・第30回加賀地区中生意見発表大会について ・石川県民体育大会夏季大会の成績報告について
<p>平成23年第9回 (H23. 9. 27)</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石川縣市町教育委員会連合会研究大会について ・加南地区教育委員会連絡協議会研究大会について ・学校計画訪問（2学期）・研究発表会について ・スポーツフェスティバル in てらい、in たつのくちについて ・寺井地区公民館主催事業について ・日本スポーツマスターズ 2011 石川大会テニス競技会結果について

<p>平成23年第10回 (H23.10.25)</p>	<p>議案第24号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもマイスターウィークについて ・中学校部活動（新人大会）成績について ・チャレンジカップ2011市小学校対抗サッカー大会結果について ・能美市総合文化祭について
<p>平成23年第11回 (H23.11.24)</p>	<p>議案第25号 能美市スポーツ振興審議会に関する条例及び能美市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について</p> <p>議案第26号 能美市体育施設の指定管理者の指定について</p> <p>議案第27号 能美市体育指導委員に関する規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第28号 平成23年度能美市一般会計の教育関係12月補正予算の要求について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもマイスター賞結果報告について ・歳末助け合い入札展について ・石川縣市町対抗ふるさと駅伝大会について
<p>平成23年第12回 (H23.12.20)</p>	<p>議案第29号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成人式について ・能美学びフェスタ2012について
<p>平成24年第1回 (H24.1.18)</p>	<p>議案第1号 能美市立辰口学校給食センター運営委員の補充について</p> <p>報告第1号 専決処分の報告について (能美市自治公民館等施設整備補助金交付要綱の一部改正)</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度成人式参加状況について ・スポーツ室大会について <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <p>租税教育の推進について要望</p>

<p>平成24年第2回 (H24. 2. 17)</p>	<p>議案第2号 平成24年度能美市一般会計の教育関係当初予算の要求について</p> <p>議案第3号 平成23年度市一般会計の教育関係3月補正予算の要求について</p> <p>議案第4号 平成23年度要保護及び準要保護児童生徒の追加認定について</p> <p>議案第5号 能美市公民館条例等の一部を改正する条例について</p> <p>議案第6号 能美市図書館協議会規則の一部を改正する規則について</p> <p>議案第7号 能美市博物館協議会規則の一部を改正する規則について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能美市立小・中学校の卒業式について ・スポーツ室事業関係 <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <p>インフルエンザの予防対策について</p>
<p>平成24年第3回 (H24. 3. 6)</p>	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能美市立小中学校管理職異動内申について
<p>平成24年第4回 (H24. 3. 22)</p>	<p>議案第8号 能美市防火管理講習補助金交付要綱の制定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第36回全日本競歩大会結果報告 ・物見山陸上競技場改修工事竣工式について ・スポーツ課事業予定について
<p>平成24年第5回 (H24. 3. 26)</p>	<p>選挙第1号 能美市教育委員会委員長の選挙について</p> <p>議案第9号 能美市教育委員会委員長職務代理者の指定について</p> <p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度入学式の日程について ・のみでん桜フェスティバルについて

2 教育委員の主な活動（大会ほか各種行事など）

月	日	内 容
H 2 3.	4. 1	事務局職員辞令伝達式
H 2 3.	4. 5	市内小学校・中学校入学式
H 2 3.	4. 7	第4回市教育委員会会議
H 2 3.	4. 7	転入教職員辞令交付式並びに着任式
H 2 3.	4. 25	石川縣市町教育委員会連合会理事会（金沢市）
H 2 3.	4. 25	市青少年問題協議会
H 2 3.	4. 28	市体育協会総会
H 2 3.	5. 10	石川縣市町教育委員会連合会総会（金沢市）
H 2 3.	5. 13	史跡秋常山古墳群保存整備工事竣工式
H 2 3.	5. 13	第5回市教育委員会会議
H 2 3.	5. 26	栗生小学校計画訪問
H 2 3.	6. 2	第6回市教育委員会会議
H 2 3.	6. 3	第7回市民体育大会総合開会式
H 2 3.	6. 6	寺井中学校計画訪問
H 2 3.	6. 9	福岡小学校計画訪問
H 2 3.	6. 13	根上中学校計画訪問
H 2 3.	6. 21	浜小学校計画訪問
H 2 3.	6. 23	辰口中学校計画訪問
H 2 3.	7. 7	和気小学校計画訪問
H 2 3.	7. 9	NHK学園能美川柳大会・市民川柳大会
H 2 3.	7. 16	根上グリーンビーチ海開き・安全祈願祭
H 2 3.	7. 20	第7回市教育委員会会議
H 2 3.	7. 27	学校教育懇談（湯野小学校）
H 2 3.	7. 28	学校教育懇談（辰口中学校）
H 2 3.	7. 29	学校教育懇談（根上中学校・浜小学校）
H 2 3.	7. 29	石川縣市町教育委員会セミナー（金沢市）
H 2 3.	7. 29	第63回県民体育大会夏季大会・能美市選手団結団式
H 2 3.	8. 1	学校教育懇談（辰口中央小学校・和気小学校）
H 2 3.	8. 3	学校教育懇談（宮竹小学校）
H 2 3.	8. 6・7	第63回県民体育大会（白山市中心）
H 2 3.	8. 10	学校教育懇談（栗生小学校）
H 2 3.	8. 11	学校教育懇談（福岡小学校・寺井小学校）
H 2 3.	8. 18	学校教育懇談（寺井中学校）

H 2 3. 8. 2 6	第 8 回市教育委員会会議
H 2 3. 8. 3 0	第 6 3 回県民体育大会夏季大会・能美市選手団解団式
H 2 3. 9. 1 ~ 9. 7	あいさつ運動強化週間
H 2 3. 9. 3	加賀地区中生意見発表大会（主催）
H 2 3. 9. 2 5	国指定史跡秋常山古墳群保存整備完成記念 シンポジウム
H 2 3. 9. 2 7	第 9 回市教育委員会会議
H 2 3. 1 0. 1 1	加南地区教育委員会連絡協議会研究大会（能美市）
H 2 3. 1 0. 1 4	石川県教育委員会連合会研究大会（小松市）
H 2 3. 1 0. 2 3	小松精練杯チャレンジカップ 2 0 1 1 能美市小学校 対抗サッカー大会
H 2 3. 1 0. 2 5	辰口中央小学校計画訪問
H 2 3. 1 0. 2 5	第 1 0 回市教育委員会会議
H 2 3. 1 0. 3 0	市総合文化祭（ジュニア文化発表会）
H 2 3. 1 1. 3 ~ 1 1. 6	市総合文化祭
H 2 3. 1 1. 8	宮竹小学校計画訪問
H 2 3. 1 1. 1 7 ~ 1 1. 2 0	第 4 回子どもマイスターウィーク
H 2 3. 1 1. 1 8	湯野小学校計画訪問
H 2 3. 1 1. 1 9	子どもマイスター賞表彰式
H 2 3. 1 1. 2 4	第 1 1 回市教育委員会会議
H 2 3. 1 1. 2 4	寺井小学校計画訪問
H 2 3. 1 1. 2 7	市ジュニアスポーツクラブ交流大会
H 2 3. 1 2. 2 0	第 1 2 回市教育委員会会議
H 2 4. 1. 8	市成人式
H 2 4. 1. 1 8	第 1 回市教育委員会会議
H 2 4. 2. 1 2	能美まなびフェスタ 2 0 1 2
H 2 4. 2. 1 3	立志式
H 2 4. 2. 1 7	第 2 回市教育委員会会議
H 2 4. 2. 2 4	市体育協会表彰授与式
H 2 4. 3. 6	第 3 回市教育委員会会議
H 2 4. 3. 9	根上中学校・寺井中学校卒業式
H 2 4. 3. 1 0	辰口中学校卒業式
H 2 4. 3. 1 0 ~ 3. 1 1	第 3 6 回全日本競歩能美大会
H 2 4. 3. 1 6	市内小学校卒業式
H 2 4. 3. 2 2	第 4 回市教育委員会会議
H 2 4. 3. 2 6	第 5 回市教育委員会会議

評価

・地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育全般にわたる職務権限を有する行政委員会として、委員自らが重要な責務を自覚しつつ、職務遂行に必要な知識の習得・研修に取り組んだ。タイムリーな助言が得られている。

○意見

教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律上、およそ教育全般にわたる職務権限を有する行政委員会であり、定例会や臨時会において決すべき議案も多岐にわたるものと思量します。

能美市の教育活動のさらなる活性化、まちとしての能美市の魅力の掘り起こしや発信に資するような教育事業の展開に大きな役割の発揮を期待しています。

○評価者の意見を付するにあたり

今年度の能美市教育委員会の点検及び評価報告書は、教育委員会の各担当課や関係機関がこれまで以上に自らの事業を見つめ直したという印象を持ちました。

限られた予算をどの事業に何のために配分し、どのような成果が得られる可能性があるか、と言う自己分析、また事業遂行上、改善や見直しの方向についても真摯に向き合おうとする行政意思を感じ取りました。

教育行政は、確かに多分野多領域にわたる営みではありますが、あげて児童・生徒のため、教員のため、地域住民のためになされるものである必要があります。

もちろん、漫然と施策を遂行するのではなく、喫緊の課題については優先順位を高く設定して、重点的に予算を配分するなどメリハリのある施策としなければならないように思います。

今日、行政施策にいわゆるP D C Aサイクルの考えが導入され、自己点検・自己評価の取り組みが進められています。このことは、地域住民に対する説明責任を果たすとともに、評価結果を新たな施策の推進に活かし、その利益を地域住民が享受できるような仕組みづくりに役立てることが重要であることから、このたびの自己点検・自己評価が今後の能美市における教育全般のより良い発展に寄与するものであることを切に願うものです。